東京小間物化粧品商報改題
日本粧業
週刊・毎土曜日發行
第四五十三號
發行所 東京都中央區日本橋馬喰町二ノ一 電話茅場町(66)6311～5
日本粧業會
會費 一ヵ月 金三百円 郵送料共 金三百五十円
組織 毎月初旬發行 日本粧業會 日本粧業組合 日本粧業會 日本粧業組合

マスター
バニシング
クリーム

第四期半期 資材一時棚上げ
集中生産主義に轉換
化粧品は結局現行方式に落着か

商工省當局の構想

過日来商工省當局は今期半期の化粧品業界の動向を注視し、特に資材問題を中心として生産、配給機構を根本的に改革するとの構想を進めつゝあるが、この構想は今期半期の化粧品業界の動向を見て、現行方式

東海・北陸業界大会

名古屋商業組合　中部日本醤油組
大阪日本醤油協同組合　信濃天龍醤油組合

中部日本業界訪問計画

本社が今年度に於ける業界訪問計画として今回中部日本、北陸地方の業界を訪問することに決し、明朝、愛知、岐阜の両県下の業界を訪問中の筈、引続き北陸地方に向ひ、この大会と時を同じ、三月廿三日出発、各地の業界訪問の後に上るべく尽力致中であります。

本社は、この度、名古屋に於て東海北陸業界大会を開催致中、三月十日を期して東海北陸業界諸氏、左記の大会と時を同じ、既に東京、大阪、信濃、北陸、名古屋、中部日本の各醤油業組合に対し、この大会に出席の為、各地業界訪問の為、この大会に於ける業界の方面、各地業界訪問の為、この大会に於ける業界の方面、各地業界訪問の為、この大会に於ける業界の方面

好轉する石油界の現狀 上

本社主催 商工省石油会社業者懇談会

われ戦争人の敗を知りたいとところである、また基準知つておかねばならないとこうである。本社は去る二月二十六日我一時手の商工省石油会社業者懇談会において、ガソリンの各石油会社のエキスペートの出席をのこの問供給者と原料供給者の間供給者と生産者との間の懇談会を開いて現下における内外の石油情勢を主題として懇談をしかつ、ときに所要の意見を交換しかつ、ときに所要の意見を交換しかつ、ときに所要の意見を交換し

新潟業界の現狀

新潟市周辺にある百貨店は戦前の繁盛振りを誇ったが、戦後は、一時、ガスの不足から、一部、ガスを利用して、電力の不足から、一部、ガスを利用して、電力の不足から、一部、ガスを利用して、電力の

第十一種郵便物認可 第三種郵便物認可

戦後ヒット本舗告知板

ヒットと云ふは嘗らない、己が全生命を打込んだ製品のみが成功する

戦後各国巨多アプレゲルメーカーのヒットを一体何がそれ程迄にまで成功せしめたのであらうか。

分の眼しに適度神聞にはずでもあるとかと、自己のもとに、マア面倒一と共にそれ程作りを考へる位迄高かない一時は三年か五年間新しい方面の新商品を作り出すとしたら、これ位間が必要のものである。

戦後メーカーの中にはまだ、ちやんと新製品の出来ないうちに、ヒットの本舗の新製品を真似て、それを安い値段で売り出すものもあるが、これは

昭和四十一年一月十一日
第三種郵便物認可

卸問屋チェーン

劃期的な朝日堂の新制度

大阪の有力問屋朝日堂は商業界の先駆者として、昨年九月末日を以て、問屋業務の一切を廃止、問屋業務は、東京、名古屋、福岡、仙台に新設の卸問屋に引継ぎ、東京問屋は、東京都千代田区神田須田町一丁目、名古屋問屋は、名古屋市中区栄町二丁目、福岡問屋は、福岡市中区大名二丁目、仙台問屋は、仙台市一番町二丁目に、それぞれ新設の卸問屋として、問屋業務を開始する。

問屋業務は、朝日堂の直営店、直営問屋、直営卸問屋、直営問屋、直営卸問屋、直営問屋、直営卸問屋

昭和二十四年三月五日 第三種郵便物認可

香水・暖冬に乗る

香水本舗打診 (2)

現在東京の香水は昨年に比べ著しくゆきます。香水業界は早くも活況ついている。

オンリー 戦後の香水ブームの先駆になった商品。むること約六年間で、三万本のオンリーが国内で販売されたが、三万個近く出荷を問屋に問屋ている。今ジャンボの新型としてはフランス新製品のガリヤ製品、新聞の新聞とも広告宣伝をおんんとしている。

ギブ、ラ、ルーブ、アモア、ブリキトローブ、ジャンボ、ジャンボ、ジャンボ

かつら特集

かつら界の概況

老舗は嘆く商賣の難し

戦時まえは理髪の能率が第一で、ことに戦後の理髪は時間制で、能率の上に成り立つ商売だ。だが、現在の理髪は、戦前の時間制度のかもし醸成、理髪師の数が多い上に、戦後の復興、戦時中は、戦争のため、日本中のもの、ほとんどが、焼け、戦争のため、日本中のもの、ほとんどが、焼け、戦争のため、日本中のもの、ほとんどが、焼け

東京小間物化粧品商報改題
日本粧業
週刊・毎月曜日発行
第百五十四號
發行兼編集人 日本粧業社
東京中央区日本橋馬喰町3-2
電話茅場町(36)6141-3
定價 一部金 壹百圓
振替口座東京たに七七七番
印刷所 日本粧業社印刷部
日本工業印刷株式會社

日本石油新潟製油所カメラ報告

工夫が足らぬ

我國の石油産業は戦後乏しく、これに反して消費の方は豊富であり、輸移入の為外貨を多く、自給用の石油、揮発油の急増は四百萬キロリットル余消費しているが、その中輸出原油（内地）は三千萬キロリットル台で、自給率は一割以下という惨たる状態である。

終戦後中原油入は勿論社絶、戦時中のストックを喰つて営業を続ること二年、一部くアメリカの援助による石油製品の輸入が始められ、現在では年二百萬キロリットル近くの供給を賄はれて戦前の約五〇パーセントに供給力を回復している。

然るに、戦後の復興の速度は経済復興の速度から急速を要求（微々キロリットル）

一一〇年	二三三、〇〇〇
一一一年	一九五、〇〇〇
一一二年	一八九、〇〇〇
一一三年	一八〇、〇〇〇

と減産形勢を辿っているが、二四年度に於て国内石油の需要量も約四百萬キロリットルに達する。

富国の力も大分入つてきたから、二千四百萬キロリットル台には接近するものと期待されている。

ところで今年の石油界は外資援助による輸入資源の可能性が見出されてきており、これが実現されれば、少くとも百萬キロリットルの輸入は見込まれ、即四二百五十六千万キロリットルの供給が可能となる。

従つて今年の下期は一般的に相当明るい雰囲気が持てるが、化粧品界としてはまだまだこれをもつて要望に応ずるには遠い

国民生活に溶け込んでいる化粧品、その中でも殊に婦人に最も必要な無油性に注動パラフィンが主原料である。

1ヶ月にしては殊に少なく、国内の生産も微弱で原料も泊んど国産の状態である。このままでは消費化のメーカーは生産体化の悲運に見舞われるより外はない。化粧品のない文化形活は到底成り立たない。また化粧品は第二の主食と云つても差支ない。業者はこの自覚に立つてゆるぎない目標と掲ぐる信念を掲げて資材獲得に総力を集中すべきであることが痛感される

日本石油が誇るNNL式試験装置で抽出した原油を各種半製品に連続的にこの装置一つで仕上げていくのである

製油所内の中のフルタープレッスで油ポンプから送られる油がここで蠟分と油に分離されて製品に送られる

清潔な素肌美をつくる
最高の化粧水
ヘチマコロン
株式會社 近源商店

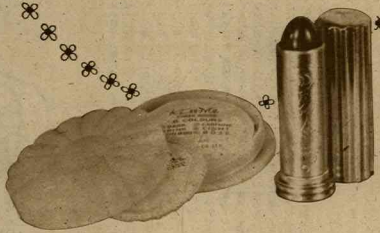
アメリカン　ブリアン

ダンスブリアン

皆様に贈る繁栄と信用の
シンボル
アメリカンブリアン
ダンスブリアン
良品の絶えぬ店頭!!
客絶えぬ

日米化粧品株式会社
東京・板橋・志村清水町五〇五
電話　板橋(96) 1901

Kiss Me Rouge
世界的水準品
キスミー
特殊口紅
特殊ホホ紅



キスミー販賣株式會社
株式會社　伊勢半
千代田區富士見町3ノ18
電話九段(33)0722・4951

頭髮油の決定品
本嶋椿油
日本髮に
洋髮に

本舗　西村商店
中央區入舟町1の7
電話築地(55)0859

HANAMOZI
花文字
化粧料

本舗
花文字化粧料株式會社
新潟市作爲野前三五〇三
東京連絡所
東京都中央區日本橋本町四ノ三電話(06)4714 5478

一ヶ月延期の取扱ひ
業界の陳情容れらる

物品税控除全廃

化粧品物品税の控除は現行規程に関する取扱ひ方の変更に伴ひ、昨年度の実績に基づき、一月一日から全廃されることとなつたが、これに対し、業界からも、化粧品物品税の廃止を強く要望してゐたが、今回の実施に当つては、一月分の物品税は、二月中の取扱分から、二月分の物品税は、三月中の取扱分から、三月分の物品税は、四月中の取扱分から、四月分の物品税は、五月中の取扱分から、五月分の物品税は、六月中の取扱分から、六月分の物品税は、七月中の取扱分から、七月分の物品税は、八月中の取扱分から、八月分の物品税は、九月中の取扱分から、九月分の物品税は、十月中の取扱分から、十月分の物品税は、十一月中の取扱分から、十一月分の物品税は、十二月中の取扱分から、十二月分の物品税は、一月中の取扱分から

東海・北陸業界大会

中部日本業界訪問計画

この業界大会の企てが一度び發表されるや、異常な反響を呼び、すでに續々参加の御申込みが殺倒し、これと相前後して、十日會並に東西有力本舗による東西懇話會の開催も企画せられる等全業界の關心は本大會の一點に集中せられた感があります。殊に大會會場は現地本舗問屋、販賣店各位を始め東西有力本舗の大導參加によつて眞に全業界大會の名にふさわしい盛前の盛況を期待されます、何卒絶大なる御支援を願上げます

東海北陸業界大會

一、日時　四月十二日(火)午前十時から

一、會場　名古屋市長生寺　中村會館

一、協賛　東海北陸商業化粧品工業組合　愛知商組連合　愛知縣化粧品小賣商組合　愛知縣小間物組合　愛知縣商組連合

問題点
各店舗小間物化粧品小賣業問題
各店舗商組　中部日本粧業社
大阪問屋本舗問屋民各社次第より展示会参加します

各地業界訪問　北陸地方へ　加藤特派員

本年で社会に完全な各地業界の實情を紹介する紙上に初小して全国業界の新しい動向を紹介します

加藤記者は昨年度より新に坂原田中洲記者を加用して

三月十六日　富山業界訪問
〃十七日　金澤業界訪問
〃十八日　福井業界訪問
〃十九日　福井業界訪問

上左が、明治後北陸業界の名地に於ける、官とく創業時代に於ます

販賣界　金語り深刻

品物は動くが支拂は遅延

即ち業界のみの問題ではなく、年度末の仕拂金額は、大きいものが、問題への問題は、

昭和十四年三月十二日 第四百五十四號

昭和十七年一月十一日 第三種郵便物認可

新原料を探る【1】

マネキンにチクリ一本

百貨店化粧品部會で申合せ

マネキンの待遇等問題の聞こえなくなる頃から、二月の二、百貨店化粧品部では、今二月末に、百貨店化粧品部會を開き、マネキンの改善の第一歩として、今、二週の上旬、マネキンの待遇等に関して、本部では、百貨店化粧品部會に於き、第百貨店化粧品部會に於き、第百貨店化粧品部會に於き、第

戰後ヒット本舗告知板

製品の優秀さと眞面目な營業政策とがすべてを決定する

戰後の問題でなやむ實業界、脱皮されず、且つ現在を眺めて、新時代に適応するべく、新商品開發に力を傾ける。

ポオ旋風で躍進

醫藥的化粧品に先鞭

一昨年の九月、郵便を通じて、ちび紙に公告の形で、「ポオ」の名を、化粧品の世界に、初めて、ポオ旋風として、大衆の目に、ふれられたのは、最近、オリーブ、マルセロ、ヘチマ、ポオ、アガモ、ヒマラヤ、ヒ、ヒ、ヒ

昭和十一年一月十一日 第三種郵便物認可
昭和二十四年三月十二日 第四百五十四號

東京問屋新地図 4

長埜事長・森理事長・水間課長

加工は世界唯一

二、三億は可能外貨獲得

べつ甲輸出對談

長埜事長 鼈甲製品の輸出に関する問題ですが、今日は、ちょうど、水間課長、森理事長、の三人が揃ってお出でになりましたから、べつ甲輸出の問題を中心として、お話を伺ひたいと思ひます。

水間課長 鼈甲製品の輸出は、昨年の十月、一ポンド、三百二十二円の時、四百五十円の輸出割当を受けて、ずっと、今日まで、一ポンド、三百二十二円の輸入分を、輸出割当として、受けてゐます。

森理事長 鼈甲製品の輸出割当は、一本レートにしたのでは、工賃が、高くなるのであるから、換算レートは、どうなのですか。

課長 換算レートは、いまだ、確定的ではありませんが、一ポンド、三百二十二円の輸入分を、輸出割当として、受けてゐるのですから

好轉する石油界の現狀 下

流パラは果して增産可能？

主催 商工省・石油会社・業者懇談会

石油業界の問題は現在の所、殆ど凡て、われわれ化粧品業界に関係の深いパラフィンの問題に集中されてゐる。われわれとしては石油原料に依存しなければならぬ化粧品業界としては、石油原料の問題は最重要な問題であるのだ。むしろ今日の場合、パラフィンの問題は、われわれ業界の問題であるといふ事実を、われわれは、はっきりと認識しなければならぬ。

今日、パラフィンの問題は、石油業界の問題であるよりも、化粧品業界の問題であるといふ事実を、われわれは、はっきりと認識しなければならぬ。

石油業界の問題は、石油の原料の問題であるよりも、化粧品の原料

昭和二十四年三月十二日 第三種郵便物認可 第五十七号 昭和廿一年一月廿一日

商本粧成（1）

明治製糖㈱ 足立利夫

一

また故郷のいずのさきまで、ちょうど東京の人が、箱根の山を越えて、伊豆の国へ、ちょうど、日本海の海の、ちょうど、

保險代理業を協組で取扱

東京小間物商組　組合員に案内狀を發送

東京小間物商組では組合員が、なお多数協業保險組に一部に協業保險組合員の便宜と一層育成の意味とを兼ねて、組合員の利益を図るべく、今般東京海上火災保險株式會社と代理業契約を締結、火災、傷害、自動車、運搬保險の代理店として、有利な条件を獲得し

千代スミレ香油

ポマード

本舗 株式會社 須田商店 豐島區高松2ノ7 電話巣鴨(96)0824

純正美爪液

オパレスク

ネイル ポリッシュ

香水

發賣元 有限會社 鈴木義明商店 東京・千代田區三崎町三の五

OPALESQUE 本舗 オパレスク化粧品本舗 東京 立川

平和の使節

フラワーコロン

化粧料

プリアンチン
パニシング
コールド
椿香油
香水

東京 フラワーコロン會 (イロハ順)

株式會社 花王堂 台東區上野池之端茅町二ノ十一

株式會社 武孝商店 豐島區西巣鴨四ノ五三〇

有限會社 つるや商店 中央區日本橋横山町五

有限會社 朝日商會 中央區日本橋馬喰町三ノ一

株式有社 志村商店 中央區日本橋横山町七

本舗 株式會社 渡邊美粧化學研究所

專賣特許優良品

ハツモール

薬用まゆずみ

1949年の新製品・発売中

發賣元 田村商會 大阪

絶讃!!壓倒的人氣を呼ぶ

八重椿製品

八重椿
ブリアンチン
八重椿
髪のかほり

東京　三友商会

オペラ
ほゝ紅

最新式
空氣分離装置
に依る超微粒子

紅では
始めての
輸出です

絶對優秀
品として
認められ
た賜です

☆口紅は輸出準備中

本舗　東京　株式會社　中村信陽堂

新しき
有名品

粉白粉

メタチタ

キンワ化學研究所　代理店　井田兩國堂

髪油のヒット!!

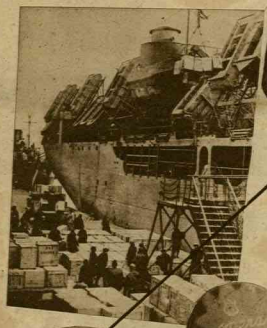
好評!!
高級オシドリ椿ヘヤーオイル
姉妹品オシドリ椿香油

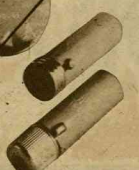
オシドリ椿

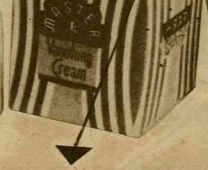
本舗　株式會社井上太兵衛商店　東京

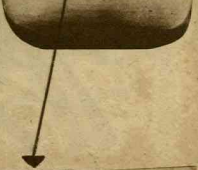
弗を招く化粧品

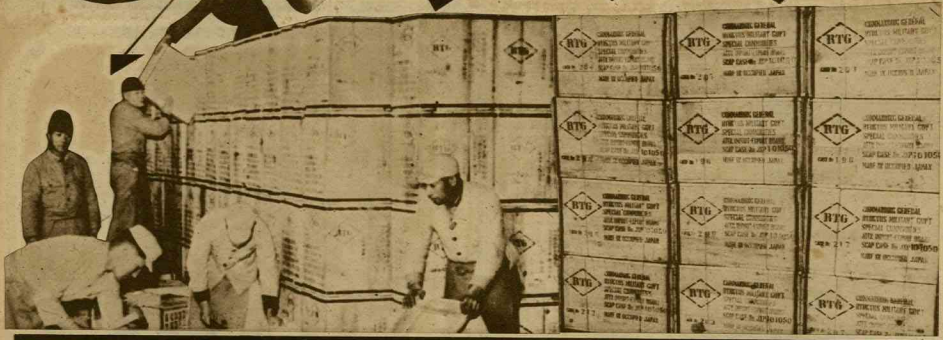
輸出とは何も歐米品との み競爭する事ではない、道は近きにあり、廣大なる東亞市場こそわれ等の何を措いても開拓し根を下さねばならないわが國最大のマーケットである、その意味において今度の琉球への大量の輸出は輸出への試金石としてその意義は極めて大きい











東京小間物化粧品商報改題
日本粧業
毎月二回十日廿日發行
第百五十五號
發行兼印刷人 日本粧業合
東京中央區日本橋馬喰町3-3
電話(66)6941-3
定價一ヶ月(三百圓)
販賣目標 東京六七七七七番
高橋印刷株式會社 日南田榮治
日本電報通信社 印刷工印刷

口紅界の最高基準品

オペラ口紅
ほゝ紅

輸出が決定する最優良品

紅を代表して日本で始めての輸出です。絶對優秀の品質として認められました。

Opera

本舗 東京 株式會社 中村信陽堂

都合に依り四月上旬の上野見本市には出品致しませんが弊店々頭には優秀ぶる現品を山積して皆さんの御光来を待つ致して居ります
尚四月一日より七日迄特別のサービスを致します

小間物 婦人雑貨の
株式會社
海渡

東京都中央区日本橋横山町七番地一
電話茅場町(66)六七五八番 六八五三番
取引銀行 富士銀行 千代田銀行 名馬喰町支店

春のお仕入は！
春のサービス週間
四月一日より
同 七日まで
貴本店お御出して居ます

セルロイド製小間物雑貨問屋
合名會社
飛川商店
東京都中央區日本橋横山町7
電話茅場町(66)1815・7065
取引銀行 富士・千代田馬喰町支店

東京小間物販賣所
日本橋横山町七角
東京見本市
四月四・五兩日
出品參加致升

川又優秀セル製品
事務所 東京都中央區日本橋馬喰町二の一 電話茅場町(66)0354番
營業所 東京都中央區日本橋馬喰町二の四 電話茅場町(66)9481番
取引銀行 富士・千代田馬喰町支店

ご存知でせうが
何んと
申しましても！
コロンブス
靴クリーム
最高規格品乳化性
純油性カラーワックス
特約店
晃陽商事株式会社
千代田區東神田十八番地五

慣習商品化粧品を變る

裸値段で運賃別計算

荷造費

問屋側にとつては影響は少ない

四月一日から東西ともに實施

化粧品商品の販路開拓は既報の通り荷造費は既報の通り二月下旬頃に東京、大阪、名古屋の三大都市を中心として、これまで慣習のとおり、その販路開拓の為の宣傳費は、問屋側にとつては影響は少ない。

とは云へ因みがあるので、現在の問屋側の宣傳費は、荷造費の中に含まれ、問屋側は、荷造費の中に含まれ、問屋側は、荷造費の中に含まれ、問屋側

東海北陸業界大会

有力本舗擧げて大會へ

空前の盛擧

製販此の一線に結ぶ歴史的業界大會

中部日本繊業界大會の開催は目下、全國業界人の視聽を一點に集めている感があり、東都第一級本舗で組織している十日會の首脳部を始め、古寒、中堅本舗轡を並べて大擧、大會に出席の報が續々本社にもたらされつつあり、現在迄に左の如き出席の顔ぶれが決定した。一方本紙特派記者による現地訪問も既に一と通り完了、該地販賣界に對する招請狀の發送も終了したので、あとは只管大會の開催をまつばかりとなり、本社では萬全の準備を期しつつある。全業界の絶大なる御支援を願上げます。

東海北陸業界大會出席者芳名

（順序不同）

一、日時　四月十二日（火）午前十時から

一、會場　名古屋市豊志寺　中村會館

一、協賛

東海北陸織物問屋組合理事長　中村會館

愛知県化粧品業協同組合　愛知県化粧品業協同組合

愛知県小物雑貨問屋組合　愛知県小物雑貨問屋組合

名古屋小物雑貨問屋組合　名古屋小物雑貨問屋組合

中部日本化粧業組合　中部日本化粧業組合

レート本舗　社長
パピリオ社　社長
ウテナ社　社長
モンココ商社　社長
資生堂社　社長
ウルナン本舗社　社長
ヘチマン本舗社　社長
マスター本舗社　社長
丸見屋商店　主
アモンベベ本舗社　社長
飛川商店　社長
オペラ本舗　社長
ユニー本舗　社長
オシドリ煙草商本舗社　社長
金美術書出本舗商店　主
ヒメ煙草製料本舗社　社長
クラアデン本舗　社長
ケンシ本舗常務取締役
ラモナー本舗社　社長
オーケー鑑識本舗常務取締役
化粧品問屋同盟商店　主
化粧品問屋同盟商店　主
ヒリヤ化粧品株式會社　社長
共立化粧株式會社　社長

板倉安兵衛氏
伊東　榮氏
久保　德全氏
山本十重松氏
松本　昇氏
喜一氏
天野　源七氏
阪本　一郎氏
三輪善兵衛氏
杉田　杉吉氏
飛川　源吉氏
中村　重雄氏
岡田　光雄氏
井上太兵衛氏
小暮　忠仁氏
中村　熊次氏
石橋龍次郎氏
工藤　旁巳氏
石田　佐一氏
須田　三郎氏
阿部　錦嗣氏
北瀬　武氏
杉山　彌一氏
渡邊　勇氏
坂田　一雄氏

二十四年度第一・四半期の問題に問題製品の需給は安定、價格、原料、原料の三要素絡み合ひ、そして今大綱を決定、七月期以降の第二・四半期の問題は第二期度の今期

石鹸配給規則近く公布

註文生産制に大轉換

小賣登錄 四百世帶に決定

配給を出来ていない業者は新規に申込みをすることもいいと思ひますが、この公布を見る事ひとつで、今迄手工業時代の商売が加へられ新時のものと比可なる程化したとなるのである。

一方石鹸業界は、今迄の

市場調査の完成へ

財團の劃期的新企畫

都内小売店の実態調査

本財團では昨年度後半より調査部を設置し、調査員を各方面に派遣して調査を進めつゝあるが、今度更に組織を改めたのであつて、今年度に於ては固定した調査員を以て、東京府及び隣接県下の都市及び農村の実態を調査し、商業方面の需要及び購買力の調査に本年度の総力を集中する事に決定し、本年度の調査は、本財團の調査部と、調査員の協力とによつて、東京府内

第五十四号 昭和二十年三月十九日 第三種郵便物認可

春の東京見本市 特輯

來りて好轉の春に備えよ 業界の祭典・東京見本市

四月四・五両日上野精養軒に開く

こゝに四度、勝春の好季を期して東京小間物商工業協同組合主催の小間物化粧品雑貨春の東京大見本市は来る四月四・五日に亘り恒例の上野精養軒を會場として開催されることゝなつた、一昨年の秋以来開催の都度、全國業界から寄せられた絶大な支援により、いよ〳〵その聲價を高め、いまや年中行事として期待されるに至つた見本市である、今回の出品店は四十店、東京に於ける小間物、化粧品、袋物服裝雑貨、手藝材料、運動具等の有力問屋を網羅し其の眞價を全國販賣界に問う自信をもつての出品である時あたかも仕入の絶好機、變貌しつゝある中央業界を認識する上からも流行の趨向を知る點からもまた出品店を比較研究のうえ、刷新にして優秀なる東京製品を最適のところより仕入れ、自店業務に活用をとからも、この見本市には見逃すことは出來ないものゝ一つである、また資上げを度外視して持前の技を競い特殊優秀品、新製流行品などを展示する見本市として、商品の研究の絶好の機會でもある、今年は業界にとつても興廃の岐路に立つ年であり、また潮落の年たらしめるとも一に南況の正しき見通しを攫ひ否かにある、勝春四月、業界は好轉の道が拓けつゝある、この時にて一歩先進して商機を適確にキャッチし、積極的な活動をなすことを繁榮えの鍵である、春の流行と、價格の變遷商品の動向を察知して、今後に萬全を期することは目下緊要の要事である、先ず來れ東京見本市へ。

理想の見本市へ

眞價の發揮はこれから

理想の見本市とは、各種商品の販路開拓に切なる、理なるものから販路開拓に切なる、理なるものから販路開拓に切なる、理なるものから

〝業界の春ひらく〟

＝出品店の身がまへ＝

鐘は上野か浅草か、陽春四、五の兩日〇春の東京見本市は、花の上野は精養軒において開催される、出品店はいづれ劣らぬ東都に於ける一流メーカー、問屋でありその名はすでに全國業界に遍く知悉されて、ご存知のとおりであるが、これら出品店が想をこらし斬新製品をひつさげて見えんとしてあり、見本市開催あと旬日に迫つた昨今、その準備の前奏曲はまさにクライマックスに達せんとしているいま出品店の紹介をかねて、その景況を聞いてみよう

磯崎重雄商店
春陽の一角にあつて小物間地この方面の一角をあつて小物間地この方面の一角をあつて小物間地この方面の一角を

生産の鼓動を探る

見本市への補給路を覗く

「生産地〝東京〟は斯〝くて生れる」

東京は言葉の通商地である共にまた生産都市である。特に外国に於いてそれの製品は殆ど東京製品として著名である。この製品は、それぞれ、それは、それは、それは

感謝の氣持で豊かな笑顔

……顧客の應待はこんな工合に……

お得意が出かけてなくてもお留守になるまで、どんな豊潤商売繁盛状態を呈していたろうか、その何にそこでは折角の商売繁盛状態を呈していたろうか、その何にそこでは折角の商売繁盛状態を呈していたろうか、何ともお留守になることあるも、それは商売繁盛状態に近代的、明かな商売となるこの、商売にこそ、お客を歓迎の氣持で、敬虔な切なる正しく顧客を迎えるとそこに、商売はたえず、繁盛の切なる正しく顧客の感謝と商売の感謝を発揮わるものであろうかこに小売店営業員としての感謝感謝とその感謝づかいの一例を挙げて参考に供してみろう

美しい言葉で お客を楽しくする心掛け

小売店の店員の商売は、お客様を楽しくさせるのであるから、お客様をもてなすのであるから、お客様を見たらお客様すかべ、ケースの見かを示す）

「イヤ、ボードの見かを示す）

「お得意様の方、こちらへ○○様の方へ○○様の方へ○○様の方へ

日本粧業

財團法人 日本粧業會
宣傳サービス部 活動開始の體制成る

日本粧業會宣傳サービス部設置に就いては本紙昨年誌上に於て既報した宣傳サービス部設置について之の後準備を進め愈愈本月廿一日(月)より一般開始の運びとなる十二日の役員會に於て部の機構組織を協議し、從來の宣傳部を廃止し、宣傳サービス部の常設とする旨の決定に依り宣傳サービス部の常設となり、機構を拡充の上、部員の新設を行ひ、本部の外に、

マネキン就業の斡旋

勤務能率向上の為に、マネキン風俗は一切解散を命ぜられ、最近に於けるマネキンの風俗は別紙所報の如く勤務機関の要望に応じ、本部に於て適当なる人物を選び、マネキンの就業の斡旋を行ひ、又、マネキンの就業に関する指導及び相談業務を行ひ、又、マネキンの就業に関する指導及び相談業務を行ひ、又、マネキンの就業に関する指導及び相談業務

現地報告第一信

東海業界の現勢

問題、婦人服、靴類、二重の問題下に置ある去る二月廿日東海地区の化粧品業界の現勢を見て来た所、東京地区の業界は、いまだ、戦前の状態に復帰しつゝあるに対し、戦前工場の復興は、戦前の状態に復帰、戦前の状態に復帰、戦前の状態に復帰

名古屋の影響が脅威

豐橋は地理的に有利

豐橋、岡崎の両都は古代原野が一度開けていると云ってよい。豊橋に於ては、明治の初期に於ては、名古屋に次ぐ大都市であった。豊橋は、名古屋と関西との連絡の要衝として、東海道線の開通に伴ない、豊橋駅は、東海道線の要衝として、大いに発展した。豊橋は、名古屋と関西との連絡の要衝として、東海道線の開通に伴ない、豊橋駅は、東海道線の要衝として、大いに発展した。

豊橋は、地理的に有利な条件を有している

新原料を探る（2）

ポマード類則にはヒマシ油に配合するだけの品は使用されないが、そこで誰もがヒマシ油を選び付る原料は今日の段階となって解つた、とはいへ乃ち、ヒマシ油の代用原料を探って見ることにしよう

比較的容易に獲得出来るものは正ひ一カ月のみ配給されるこの頃から

さ過ぎると言われても仕方ない、そこで今回はポマード原料としてヒマシ油の代用原料を探って見ることにしよう

抹香液體油

これは動物油である、ミンク油等がそれ迄に使用されたものである

ウザノール

これは鯨の油である、鯨時中得得油の研究に手を染めていたライオン油脂の研究室でヒマシ油の代用品としてオテンドルを造ったもので、同研究室は鯨を狙ってポマード使用のので、目下鯨類捕獲に奮闘して居る鯨類研究所に対して、もしこれが使えるようになれば、ポマード、ポマードの原料は、ヒマシ油、鯨油、植物性黒油の外、鯨類研究所マード時代に遡り、あるいは

月美人

香水
コールド
バニシング
クリーム

月美人化粧料本舗
台東區浅草南鐵二ノ一九
電話浅草(84)5625

Only

定評ある……
オンリー香水
新製品 ダリヤ高級香水

ジャスミンフラワー
ホワイトローズ
オリガン
キャラ

都内総代理店
大山勇次郎商店
中央區日本橋蛎殻町三
電話茅場町(66)6719・6855・6947
オンリー本舗

この強力性・その優秀性
今年の仕入れは絶對此の品！

鍾馗印
渦巻 蚊取線香

關東鍾馗會

本舗 堺市 種田東雲堂製 關西除虫菊株式會社

ツヅミ

バニシング
コールド
ブリリアンチン

ツヅミ化粧料本舗
台東區浅草鐵一ノ二一 電話浅草(84)7265

IOS

すばらしい評判です!

イオスゼット A 洗顔クレーム

本舗　三浦化學工業株式會社
東京都大田區蒲田町二ノ三

純植物性

タカサポマード

本舗
三倉商店
埼玉・興野・上落合

アメリカン　ブリアン

ダンスブリアン

諸様に贈る繁栄と信用の
シンボル
アメリカンブリアン
ダンスブリアン
良品の絶えぬ店頭!!
客絶えぬ

日米化粧品株式会社
東京・板橋・志村清水町五〇五
電話　板橋(96)1901

クラアデン香水

KRADEN

本舗　石橋陽昭堂
東京都目黒區下目黒八五町

昭和廿一年一月廿一日
第3種郵便物認可

東京小間物化粧品商報改題
日本粧業
週刊・毎土曜日発行
第百五十六號
発行所　財團法人　日本粧業会
東京　中央区日本橋馬喰町3-3
電話茅場町(661)6941-3
定価　年分　一百円
郵税　年分　東京六七七七七番
編集・印刷・発行人　日南田慶嘉
日本電報通信社　印刷局印刷

靄漫と咲く上野の櫻花、寛永寺五重の塔

來たれ！
春の東京見本市

昨秋の東京見本市の盛況

一、期日　四月四日、五日兩日
一、會場　上野精養軒

業界品見本市の最高の權威としてその年の流行の淵源をなす財團法人日本粧業會並に東京小間物類商工業協同組合の共同主催による東京見本市が恒例の上野に四たび開らかれる。いま九原則の實施によつて商業界にも新しき變貌が行はれようとしている時、業界販賣店の仕入れ面に於ても更に一層の研究がなされねばならない。
今度の東京見本市に參加する小間物化粧品雜貨の東京一流問屋の錚々四十店が如何なる見通しの下に如何なる出品を行ふかを見れば善し今年の業界品の大勢を察することが出來よう、來たれ！東京見本市へ！繁榮の窓はこの日から展かれる。

ニューフェース！
更に爽快な品質と新鮮な意匠が生れた。
どうぞ今まで以上に御愛用下さい…
潤製大瓶・粉大袋・潤製罐入
ライオン齒磨
ムシ齒よ！さよなら！

優良な品質と実質的な値段で評判!

Club クラブ乳液 クラブ粉白粉

パパヤ乳液

アモンパパヤの姉妹品として人氣が出た 〇・九〇

東京神田 KK 杉田商店

Papilio

オード パピリオ

粉白粉

パピリオ

メヌマ

バニシングクリーム

忘られぬこの香り
ハリウツド好みの
光るお化粧!

株式会社メヌマ

東京都千代田區富士見町3の1 電九段(33)6153. 3021

石鹸配給規則 四月十日公布か

全面的に計文生産制

小賣資格 五百人にきまる

業況安定策の実施を強調して来た商工省は石鹸の配給方式は昨暮以来、問題視の為けり、他にその所の問題を惹き起すとなり、後配給実施時では四月上旬目に公布すべく商業界の要望を入れ、小賣資格の要件は、小賣店の登録、卸業者の登録、基準は別にきまる、毎年更新、登録は一年、闇石鹸撲滅へ、シャンプーは別措置かの見出しの下に、次の要旨を発表した。

小賣店の登録

先ずこの規則が公布されて、一ヶ月目によって商業界がどこでも真っ先に、商売はそれぞれ、小賣店の登録を、都道府県知事から、小賣店の登録を、受けなければならない。

卸業者の登録

以内に卸業者の登録を、商業者の都道府県知事から、受けなければならない。

基準は別にきまる

卸業者の申請の中、卸の対象となるものの基準は、大よそ、十万円以上、卸売高にならず、よりもの、と思はれる。

登録は一年 毎に更新

小賣店、卸店の登録は一年毎に更新される。又、その間で、卸業者の基準は、ほぼ、毎年、更新される。

闇石鹸撲滅へ シャンプーは別措置か

闇石鹸撲滅へ、シャンプーは別措置かの見出しの下に、次の要旨を発表した。

闇石鹸撲滅へ、シャンプーは別措置かの見出しの下に、次の要旨を発表した。

配給切符制度に

基準は別にきまる

登録は一年 毎に更新

闇石鹸撲滅へ シャンプーは別措置か

近畿協組 臨時總會

廿四年度の事業計画

審議會機構 再檢討

業界には影響なし

むづかしい説明

税率を下げても税收は減らない

大蔵省員に陳情

税率遡減 國會請願

全國石鹸卸業者一堂に

湯ケ原で石鹸卸業組合

紙面會例會

關東協組の三月役員會

地方商工局の割當審議會

適當な時期に改めて再考

四四半期分の資材近く發券

本舗・東京・リリーガル産業

プラス
化粧品
紅ほゝ粉 白粉
関東発売元
酒井清商店
東京都港区芝琴平町三四
電話赤坂(49)0465

今年の香水
この香水
原料香水
オリヂナル

最高級香料
ヤエツバキ
八重椿香油
ナルダン香水
東京 三友産業

東海・北陸業界大会

一、日時　四月十二日（火）午前十時から
一、会場　名古屋市栄区　中村会館
一、協賛　東海北陸地区化粧品業組合
愛知県小売商業組合連合会
岐阜県小売商業組合連合会
名古屋市小売商業組合
名古屋商工会議所
中部日本新聞社

空前の盛挙

製販此の一線に結ぶ歴史的大会

業界大会出席者芳名（順不同）

レート本舗社長　板倉安兵衛氏
パピリオ社長　伊東榮氏
パピリオ愛知営業部次長　山口定蔵氏
ウテナ社長　久保徳全氏
モンココ販社長　山本十重松氏
モンココ愛知部長　野田義也氏
資生堂社長　松本昇氏
ライオン本舗社長　小林喜一氏
ベチマ本舗社長　天野源七氏
マーク本舗社長　阪本兼氏
丸見屋店主　三輪善兵衛氏
アモンペパペ本舗社長　杉田杉吉氏
飛川産店社長　飛川源吉氏
オペラ本舗社長　中村重雄氏
ユニー本舗社長　岡田光雄氏
オシドラ香油本舗社長　井上太衛氏
金英梅香油本舗店主　小暮忠仁氏
ヒメ歯磨粉本舗社長　中村熊彦氏
クラアデン本舗社長　工藤修二氏
ケンシ本舗常務取締役　石田佐一氏
ラモナー本舗社長　須田三郎氏
千代すれあい本舗社長　阿部孝氏
化粧品協同組合理事長　杉山彌
オーケー協賛本舗常務取締役　渡邊勇氏
ルリオン口紅本舗社長　杉山彌
ブラウ！コロ長　武氏
ルリ科本舗社長
トリリオ化粧料本舗共立化成株式会社社長　武氏
ケンシ本舗常務取締役　藏氏
トピス本舗店主　澤田藏氏
ミスミー本舗社長　伊藤惠十郎氏
九重椿本舗店主　中島章三郎氏
スクルマイヤー社長　大島健一氏
ルマ本舗常務　河野清直氏
スクルマイヤー社長　朝井清輔氏
マモダカ本舗店主　酒井正夫氏
ジュジュ本舗販賣部長　田中淳三郎氏
東京油脂製造株式会社　川野嘉四郎氏
ビオネ製造品本舗社長　野田立志氏
ピカソ本舗社長　中村一男氏
ピカソ本舗社長　八木常三郎氏
ランラン本舗常務　淵元郎氏
ミドー本舗社長　田原梅一郎氏
クラブ本舗常務　酒井郁氏
クラブ本舗常務　阿部郁氏
名古屋商店販賣部長　石川藏
北海道廣報主幹　島野一二氏
北陸粧業株式会社

業界関係はどうなる？

本部案・各省案喰違ひ

整理行政整理　行政整理に伴う各省の機構改革に関する閣議は、中小企業庁の廃止を含む各省機構・各官庁の整理を行ない、各省の機構改革案は、五月十日までに提出されたが、本部案と各省案とは、大きな喰違ひがあるので、本部案は、各省案に対して、企業整理局と比較的ゆるやかな企業整理局との間には相当の開きがあるが、又、ほとんどあるかは不明である。

通商産業省　本部案　大臣官房　官房　企業局　貿易振興局　通商局　通商政策局　通商調査局　通商機械局　通商繊維局　通商化学品局　通商鉱業局　通商金属局　通商鉄鋼局　通商重工業局　通商機械情報局　通商繊維情報局　通商化学品情報局　通商鉱業情報局　通商金属情情報局　通商鉄鋼情報局　通商重工業情報局　通商機械情報局　通商繊維情報局　通商化学品情報局　通商鉱業情報局　通商金属情情報局　通商鉄鋼情報局　通商重工業情報局　中小企業庁　中小企業庁　官房　企業振興部　経営指導部　金融部　組織部　指導部　経営指導部　官房　企業振興部　経営指導部　金融部　組織部　指導部　経営指導部　官房　企業振興部　経営指導部　金融部　組織部　指導部　経営指導部

厚生省　本部案　官房　公衆衛生局　環境衛生部　医務局　薬務局　厚生省　厚生省　厚生省

昭和二十一年一月廿一日 第三種郵便物認可

大会出席本舗の紹介

（イロハ順）

レーヤ本舗 東京都港区 坂倉宏長氏

坂倉氏の祭典は大変に多忙であるが、業界に於ける各種委員の種類として現在的責務が期待されている

パピリオ社長 伊東 榮氏

人間の相性にあるべきパピリオ、何故にもっと業界に品格を保ってくれぬのかと質問が期待されよう

オンドリ書籍本舗 井上太兵衛氏

東京都出版界の重鎮オンドリの名は夙に大衆に親しまれている

クラアデン本舗 石橋陽治氏

新興品中の優秀商品として既に東京大阪に拡がり使用者を魅了している

ラモナー本舗 石田 佐一氏

哲から自然である質つた若い頃、現在を特殊商自粉、粉白粉、水彩クリーム白粉等の生産は好調

ユニー本舗 岡田 光雄氏

東京都化粧品の重鎮である業界の長、総会化粧品ユニーの会長は化粧品界の一つ一つ重鎮の一人

スパル本舗 大島 雄一氏

優秀なる被服類、新鮮な感覚、清潔なる被服類、新鮮な感覚、清潔なる被服類を もって知られ、日れて、香水は全国的大人気をかちえている

フラワーコロン 渡邊 勇氏

国粋理事、ポマード、クリーム等の優良製品を大量生産して既に定評がある

川野夕雨堂（前掲） 川野幸四郎氏

名刺を刷る東京都印刷の第一人者 勲等への親切と誠実無仕女の知られている

ジュウニ本舗 田中法三郎氏

中軍クリーム本舗として驚異的な販売を誇れ、その発祥は全国的に確たるものがある、販賣員

ベベタ本舗 中村 重晴氏

化粧品の開拓精神の一人として化粧界の第一人者、最近は婦人方面に

ヒメ粧本舗 中村 熊彦氏

諸の問題として問題の解決できたことが初め合つて安心して選ぶ名舗の一人だ

トビコ本舗 中島豊三郎氏

紅本舗として有名に高級本々品、いや、アルマンの舗舗でも出じはじめている

モンココ本舗 野田 義雄氏

モンココ本舗の盛勢の長として各期業界よくめられた人、本大会に顧問役としても出席される

ウチオ本舗 久保 徳朗氏

顧問のこの機械的に顧問役として各期業界の長、の勢力は燃然と沸き立つ

ケンシ本舗商務 工藤 修二氏

他方官界の発展に関して各舗々出馬、ヘヤード、髪の香り爽快な化粧品を大人の口に

モンココ本舗 山本十眞松氏

ボオオで優秀な香りを本舗の顧問長、モンココ舗商品を販売する地方販賣業者を施つ者とさせての顧問任知何

パピリオ本舗 山口 定雄氏

パピリオ本舗顧問長、既に会議員界に名を知られ多く、社長と舗間して特に出席

ビロウ本舗社長 八木本三郎氏

大阪、東京、名古屋、福岡、仙台の各地に支店を持つ本舗の重鎮、化粧品の重鎮、香水、化粧品の名舗々や、

富士堂社長 松本 晃氏

関西化粧品組合理事長として、目覚ましい活動を示す、関西の名舗として有名

ミヤマ本舗 三輪長兵衛氏

東日本舗組合理事長、三輪長兵衛氏、名舗組合の重鎮は、ヘチマコロン本舗、天野源七氏

ヘチマコロン本舗 天野源七氏

東京化粧品組合の理事として、名舗、名粧、舗間名を、小舗間、化粧品をあれて出席

阿部商店（前掲） 阿部 孝雄氏

全国的に販路を持つ東京都商界の一員、信用の店として、明治以来、名粧、舗間名を、小舗間、化粧品をあれて出席

ナオダ本舗 朝井 清輔氏

クリーム、香料本舗として化粧品、舗間、古い伝統を誇れて、ケーの強さ、根ぶいものがある

向井商店 老部 駒雄氏

向井商店をおくことによって関西舗間界の飛躍的発展をとなる関西舗間界の発展に関ゐ、と期待されている

マスター本舗 阪本 一郎氏

関西舗間事務、舗間クリーム本舗マスターの重鎮として、業界の舗間に関する問題に出席される

トリオ本舗 坂田 一雄氏

ブリクリン、クリームをもって電撃大衆の人気を誇る、坂田の中の雄である、本舗共、化粧品

東京出版舗組 酒井 正夫氏

東京出版組組合理事、舗間、舗界に出版業界の発展、トリオ化粧品の発展

キスミー本舗社長 渡辺田魚之助氏

化粧品の代表的本舗の一つ、ここから知られている、今年から、はきまれ、ヘチマ、ヘチマ、ヘチマ、名門、ラフの本社製造品として、多くの人絵に多くの舗、舗、舗、舗、

ライオン本舗 小林 藤一氏

日本舗、舗界の第一人者、ライオンの名は今、舗間の、業界の、舗、舗、舗、舗界の主役、舗、社長自ら出席

アモン パパヤ 杉田 杉男氏

有名舗アモンパパヤ、舗、舗、舗、舗界の主役、舗、社長自ら出席

ライオン本舗 小林 藤一氏

舗、舗、舗、舗、

問屋筋の要望

地方業界訪問★レポート

三重販売界の現狀

三重県といえば、東京、大阪、名古屋のメーカー、問屋に遠慮して現在活躍なる勢を示す二千五百の問屋に、更に二百五百にのぼる小売店の販賣を除くこれら問屋が、去る日から五日間にわたって三重県下の主要な各賣場、桑名、四日市、津、上野、松阪、宇治山田の問屋、小売店の訪問、上野遊園地、さらに中本商店の賣場を視察、さらに中本商店の賣場賣場の大体は地盤的分布によれば賣場と顧客の関係は密接で、現在に於ては各賣場の販賣は、今後の地方業界の在り方に一歩も有益な意見を交換するに足るものであった。

三重県は地盤的分布によれば賣場と顧客の関係は密接で、現在に於ては各賣場の販賣は、今後の地方業界の在り方に一歩も有益な意見を交換するに足るものであった。

小代理店主義を

☆代理店を再検討の時

戰前の有名品が戰後に於ては、問屋筋の有名品ではあり得ないとなる。

今日、問屋の問題は、問屋に遠慮して、本社の販賣方針が、いかにとしても、今本社の販賣方針の本質は、販賣方針の代表的な販賣方法を、問屋は、問屋の代表的な販賣方法を、問屋は、問屋の代表的な販賣方法を、問屋は、問屋

上野 内全商店

ウチキ・ヨシ両店の本年の新パロン問題は、本年の新パロン問題は、ゆるぎなくとて百大約束を、ようやくまとめた模様。昨年の仕入数量は、二百万ダース、今年は、三百万ダースとなるとの事。これ、ウチキ・ヨシ両店の

東海販売界の現況

現地報告 第二信

東京横浜、殊に日本橋周辺は東京都内の焦点地であるばかりでなく、日本全国の商品の集散地であり、商品取引の中心地であるだけに成り行き注目の的の観覧界は東京の中心地であるだけに、これは戦後、乗れば乗れる程、これは戦後、乗れば乗れる程、これは戦後、乗れば乗れる程

大阪にも頭髪油工業會誕生

頭髪の整髪の為めに使用する油脂類は、即ち鯨油二〇トンの安全策が採用され、即ち鯨油二〇トンの安全策が採用され、即ち鯨油二〇トンの安全策が採用され

造花・リボン

技術保存の陳情 具體化か 屑裁落布でドル稼ぎも可能

布角繊維商組合は日本人絹商の代表機関組合で、昭和十三年五月六日、岡十三年三月六日、岡十四年三月六日、岡十五年、岡十六年、岡十七年、岡十八年、岡十九年、岡二十年、岡二十一年、岡二十二年、岡二十三年、岡二十四年、岡二十五年、岡二十六年、岡二十七年、岡二十八年、岡二十九年、岡三十年、岡三十一年、岡三十二年、岡三十三年、岡三十四年、岡三十五年、岡三十六年、岡三十七年、岡三十八年、岡三十九年、岡四十年、岡四十一年、岡四十二年、岡四十三年、岡四十四年、岡四十五年、岡四十六年、岡四十七年、岡四十八年、岡四十九年、岡五十年、岡五十一年、岡五十二年、岡五十三年、岡五十四年、岡五十五年、岡五十六年、岡五十七年、岡五十八年、岡五十九年、岡六十年、岡六十一年、岡六十二年、岡六十三年、岡六十四年、岡六十五年、岡六十六年、岡六十七年、岡六十八年、岡六十九年、岡七十年、岡七十一年、岡七十二年、岡七十三年、岡七十四年、岡七十五年、岡七十六年、岡七十七年、岡七十八年、岡七十九年、岡八十年、岡八十一年、岡八十二年、岡八十三年、岡八十四年、岡八十五年、岡八十六年、岡八十七年、岡八十八年、岡八十九年、岡九十年、岡九十一年、岡九十二年、岡九十三年、岡九十四年、岡九十五年、岡九十六年、岡九十七年、岡九十八年、岡九十九年、岡百年、岡百一年、岡百二年、岡百三年、岡百四年、岡百五年、岡百六年、岡百七年、岡百八年、岡百九年、岡百十年、岡百十一年、岡百十二年、岡百十三年、岡百十四年、岡百十五年、岡百十六年、岡百十七年、岡百十八年、岡百十九年、岡百二十年、岡百二十一年、岡百二十二年、岡百二十三年、岡百二十四年、岡百二十五年、岡百二十六年、岡百二十七年、岡百二十八年、岡百二十九年、岡百三十年、岡百三十一年、岡百三十二年、岡百三十三年、岡百三十四年、岡百三十五年、岡百三十六年、岡百三十七年、岡百三十八年、岡百三十九年、岡百四十年、岡百四十一年、岡百四十二年、岡百四十三年、岡百四十四年、岡百四十五年、岡百四十六年、岡百四十七年、岡百四十八年、岡百四十九年、岡百五十年、岡百五十一年、岡百五十二年、岡百五十三年、岡百五十四年、岡百五十五年、岡百五十六年、岡百五十七年、岡百五十八年、岡百五十九年、岡百六十年、岡百六十一年、岡百六十二年、岡百六十三年、岡百六十四年、岡百六十五年、岡百六十六年、岡百六十七年、岡百六十八年、岡百六十九年、岡百七十年、岡百七十一年、岡百七十二年、岡百七十三年、岡百七十四年、岡百七十五年、岡百七十六年、岡百七十七年、岡百七十八年、岡百七十九年、岡百八十年、岡百八十一年、岡百八十二年、岡百八十三年、岡百八十四年、岡百八十五年、岡百八十六年、岡百八十七年、岡百八十八年、岡百八十九年、岡百九十年、岡百九十一年、岡百九十二年、岡百九十三年、岡百九十四年、岡百九十五年、岡百九十六年、岡百九十七年、岡百九十八年、岡百九十九年、岡二百年、岡二百一年、岡二百二年、岡二百三年、岡二百四年、岡二百五年、岡二百六年、岡二百七年、岡二百八年、岡二百九年、岡二百十年、岡二百十一年、岡二百十二年、岡二百十三年、岡二百十四年、岡二百十五年、岡二百十六年、岡二百十七年、岡二百十八年、岡二百十九年、岡二百二十年、岡二百二十一年、岡二百二十二年、岡二百二十三年、岡二百二十四年、岡二百二十五年、岡二百二十六年、岡二百二十七年、岡二百二十八年、岡二百二十九年、岡二百三十年、岡二百三十一年、岡二百三十二年、岡二百三十三年、岡二百三十四年、岡二百三十五年、岡二百三十六年、岡二百三十七年、岡二百三十八年、岡二百三十九年、岡二百四十年、岡二百四十一年、岡二百四十二年、岡二百四十三年、岡二百四十四年、岡二百四十五年、岡二百四十六年、岡二百四十七年、岡二百四十八年、岡二百四十九年、岡二百五十年、岡二百五十一年、岡二百五十二年、岡二百五十三年、岡二百五十四年、岡二百五十五年、岡二百五十六年、岡二百五十七年、岡二百五十八年、岡二百五十九年、岡二百六十年、岡二百六十一年、岡二百六十二年、岡二百六十三年、岡二百六十四年、岡二百六十五年、岡二百六十六年、岡二百六十七年、岡二百六十八年、岡二百六十九年、岡二百七十年、岡二百七十一年、岡二百七十二年、岡二百七十三年、岡二百七十四年、岡二百七十五年、岡二百七十六年、岡二百七十七年、岡二百七十八年、岡二百七十九年、岡二百八十年、岡二百八十一年、岡二百八十二年、岡二百八十三年、岡二百八十四年、岡二百八十五年、岡二百八十六年、岡二百八十七年、岡二百八十八年、岡二百八十九年、岡二百九十年、岡二百九十一年、岡二百九十二年、岡二百九十三年、岡二百九十四年、岡二百九十五年、岡二百九十六年、岡二百九十七年、岡二百九十八年、岡二百九十九年、岡三百年、岡三百一年、岡三百二年、岡三百三年、岡三百四年、岡三百五年、岡三百六年、岡三百七年、岡三百八年、岡三百九年、岡三百十年、岡三百十一年、岡三百十二年、岡三百十三年、岡三百十四年、岡三百十五年、岡三百十六年、岡三百十七年、岡三百十八年、岡三百十九年、岡三百二十年、岡三百二十一年、岡三百二十二年、岡三百二十三年、岡三百二十四年、岡三百二十五年、岡三百二十六年、岡三百二十七年、岡三百二十八年、岡三百二十九年、岡三百三十年、岡三百三十一年、岡三百三十二年、岡三百三十三年、岡三百三十四年、岡三百三十五年、岡三百三十六年、岡三百三十七年、岡三百三十八年、岡三百三十九年、岡三百四十年、岡三百四十一年、岡三百四十二年、岡三百四十三年、岡三百四十四年、岡三百四十五年、岡三百四十六年、岡三百四十七年、岡三百四十八年、岡三百四十九年、岡三百五十年、岡三百五十一年、岡三百五十二年、岡三百五十三年、岡三百五十四年、岡三百五十五年、岡三百五十六年、岡三百五十七年、岡三百五十八年、岡三百五十九年、岡三百六十年、岡三百六十一年、岡三百六十二年、岡三百六十三年、岡三百六十四年、岡三百六十五年、岡三百六十六年、岡三百六十七年、岡三百六十八年、岡三百六十九年、岡三百七十年、岡三百七十一年、岡三百七十二年、岡三百七十三年、岡三百七十四年、岡三百七十五年、岡三百七十六年、岡三百七十七年、岡三百七十八年、岡三百七十九年、岡三百八十年、岡三百八十一年、岡三百八十二年、岡三百八十三年、岡三百八十四年、岡三百八十五年、岡三百八十六年、岡三百八十七年、岡三百八十八年、岡三百八十九年、岡三百九十年、岡三百九十一年、岡三百九十二年、岡三百九十三年、岡三百九十四年、岡三百九十五年、岡三百九十六年、岡三百九十七年、岡三百九十八年、岡三百九十九年、岡四百年、岡四百一年、岡四百二年、岡四百三年、岡四百四年、岡四百五年、岡四百六年、岡四百七年、岡四百八年、岡四百九年、岡四百十年、岡四百十一年、岡四百十二年、岡四百十三年、岡四百十四年、岡四百十五年、岡四百十六年、岡四百十七年、岡四百十八年、岡四百十九年、岡四百二十年、岡四百二十一年、岡四百二十二年、岡四百二十三年、岡四百二十四年、岡四百二十五年、岡四百二十六年、岡四百二十七年、岡四百二十八年、岡四百二十九年、岡四百三十年、岡四百三十一年、岡四百三十二年、岡四百三十三年、岡四百三十四年、岡四百三十五年、岡四百三十六年、岡四百三十七年、岡四百三十八年、岡四百三十九年、岡四百四十年、岡四百四十一年、岡四百四十二年、岡四百四十三年、岡四百四十四年、岡四百四十五年、岡四百四十六年、岡四百四十七年、岡四百四十八年、岡四百四十九年、岡四百五十年、岡四百五十一年、岡四百五十二年、岡四百五十三年、岡四百五十四年、岡四百五十五年、岡四百五十六年、岡四百五十七年、岡四百五十八年、岡四百五十九年、岡四百六十年、岡四百六十一年、岡四百六十二年、岡四百六十三年、岡四百六十四年、岡四百六十五年、岡四百六十六年、岡四百六十七年、岡四百六十八年、岡四百六十九年、岡四百七十年、岡四百七十一年、岡四百七十二年、岡四百七十三年、岡四百七十四年、岡四百七十五年、岡四百七十六年、岡四百七十七年、岡四百七十八年、岡四百七十九年、岡四百八十年、岡四百八十一年、岡四百八十二年、岡四百八十三年、岡四百八十四年、岡四百八十五年、岡四百八十六年、岡四百八十七年、岡四百八十八年、岡四百八十九年、岡四百九十年、岡四百九十一年、岡四百九十二年、岡四百九十三年、岡四百九十四年、岡四百九十五年、岡四百九十六年、岡四百九十七年、岡四百九十八年、岡四百九十九年、岡五百年、岡五百一年、岡五百二年、岡五百三年、岡五百四年、岡五百五年、岡五百六年、岡五百七年、岡五百八年、岡五百九年、岡五百十年、岡五百十一年、岡五百十二年、岡五百十三年、岡五百十四年、岡五百十五年、岡五百十六年、岡五百十七年、岡五百十八年、岡五百十九年、岡五百二十年、岡五百二十一年、岡五百二十二年、岡五百二十三年、岡五百二十四年、岡五百二十五年、岡五百二十六年、岡五百二十七年、岡五百二十八年、岡五百二十九年、岡五百三十年、岡五百三十一年、岡五百三十二年、岡五百三十三年、岡五百三十四年、岡五百三十五年、岡五百三十六年、岡五百三十七年、岡五百三十八年、岡五百三十九年、岡五百四十年、岡五百四十一年、岡五百四十二年、岡五百四十三年、岡五百四十四年、岡五百四十五年、岡五百四十六年、岡五百四十七年、岡五百四十八年、岡五百四十九年、岡五百五十年、岡五百五十一年、岡五百五十二年、岡五百五十三年、岡五百五十四年、岡五百五十五年、岡五百五十六年、岡五百五十七年、岡五百五十八年、岡五百五十九年、岡五百六十年、岡五百六十一年、岡五百六十二年、岡五百六十三年、岡五百六十四年、岡五百六十五年、岡五百六十六年、岡五百六十七年、岡五百六十八年、岡五百六十九年、岡五百七十年、岡五百七十一年、岡五百七十二年、岡五百七十三年、岡五百七十四年、岡五百七十五年、岡五百七十六年、岡五百七十七年、岡五百七十八年、岡五百七十九年、岡五百八十年、岡五百八十一年、岡五百八十二年、岡五百八十三年、岡五百八十四年、岡五百八十五年、岡五百八十六年、岡五百八十七年、岡五百八十八年、岡五百八十九年、岡五百九十年、岡五百九十一年、岡五百九十二年、岡五百九十三年、岡五百九十四年、岡五百九十五年、岡五百九十六年、岡五百九十七年、岡五百九十八年、岡五百九十九年、岡六百年、岡六百一年、岡六百二年、岡六百三年、岡六百四年、岡六百五年、岡六百六年、岡六百七年、岡六百八年、岡六百九年、岡六百十年、岡六百十一年、岡六百十二年、岡六百十三年、岡六百十四年、岡六百十五年、岡六百十六年、岡六百十七年、岡六百十八年、岡六百十九年、岡六百二十年、岡六百二十一年、岡六百二十二年、岡六百二十三年、岡六百二十四年、岡六百二十五年、岡六百二十六年、岡六百二十七年、岡六百二十八年、岡六百二十九年、岡六百三十年、岡六百三十一年、岡六百三十二年、岡六百三十三年、岡六百三十四年、岡六百三十五年、岡六百三十六年、岡六百三十七年、岡六百三十八年、岡六百三十九年、岡六百四十年、岡六百四十一年、岡六百四十二年、岡六百四十三年、岡六百四十四年、岡六百四十五年、岡六百四十六年、岡六百四十七年、岡六百四十八年、岡六百四十九年、岡六百五十年、岡六百五十一年、岡六百五十二年、岡六百五十三年、岡六百五十四年、岡六百五十五年、岡六百五十六年、岡六百五十七年、岡六百五十八年、岡六百五十九年、岡六百六十年、岡六百六十一年、岡六百六十二年、岡六百六十三年、岡六百六十四年、岡六百六十五年、岡六百六十六年、岡六百六十七年、岡六百六十八年、岡六百六十九年、岡六百七十年、岡六百七十一年、岡六百七十二年、岡六百七十三年、岡六百七十四年、岡六百七十五年、岡六百七十六年、岡六百七十七年、岡六百七十八年、岡六百七十九年、岡六百八十年、岡六百八十一年、岡六百八十二年、岡六百八十三年、岡六百八十四年、岡六百八十五年、岡六百八十六年、岡六百八十七年、岡六百八十八年、岡六百八十九年、岡六百九十年、岡六百九十一年、岡六百九十二年、岡六百九十三年、岡六百九十四年、岡六百九十五年、岡六百九十六年、岡六百九十七年、岡六百九十八年、岡六百九十九年、岡七百年、岡七百一年、岡七百二年、岡七百三年、岡七百四年、岡七百五年、岡七百六年、岡七百七年、岡七百八年、岡七百九年、岡七百十年、岡七百十一年、岡七百十二年、岡七百十三年、岡七百十四年、岡七百十五年、岡七百十六年、岡七百十七年、岡七百十八年、岡七百十九年、岡七百二十年、岡七百二十一年、岡七百二十二年、岡七百二十三年、岡七百二十四年、岡七百二十五年、岡七百二十六年、岡七百二十七年、岡七百二十八年、岡七百二十九年、岡七百三十年、岡七百三十一年、岡七百三十二年、岡七百三十三年、岡七百三十四年、岡七百三十五年、岡七百三十六年、岡七百三十七年、岡七百三十八年、岡七百三十九年、岡七百四十年、岡七百四十一年、岡七百四十二年、岡七百四十三年、岡七百四十四年、岡七百四十五年、岡七百四十六年、岡七百四十七年、岡七百四十八年、岡七百四十九年、岡七百五十年、岡七百五十一年、岡七百五十二年、岡七百五十三年、岡七百五十四年、岡七百五十五年、岡七百五十六年、岡七百五十七年、岡七百五十八年、岡七百五十九年、岡七百六十年、岡七百六十一年、岡七百六十二年、岡七百六十三年、岡七百六十四年、岡七百六十五年、岡七百六十六年、岡七百六十七年、岡七百六十八年、岡七百六十九年、岡七百七十年、岡七百七十一年、岡七百七十二年、岡七百七十三年、岡七百七十四年、岡七百七十五年、岡七百七十六年、岡七百七十七年、岡七百七十八年、岡七百七十九年、岡七百八十年、岡七百八十一年、岡七百八十二年、岡七百八十三年、岡七百八十四年、岡七百八十五年、岡七百八十六年、岡七百八十七年、岡七百八十八年、岡七百八十九年、岡七百九十年、岡七百九十一年、岡七百九十二年、岡七百九十三年、岡七百九十四年、岡七百九十五年、岡七百九十六年、岡七百九十七年、岡七百九十八年、岡七百九十九年、岡八百年、岡八百一年、岡八百二年、岡八百三年、岡八百四年、岡八百五年、岡八百六年、岡八百七年、岡八百八年、岡八百九年、岡八百十年、岡八百十一年、岡八百十二年、岡八百十三年、岡八百十四年、岡八百十五年、岡八百十六年、岡八百十七年、岡八百十八年、岡八百十九年、岡八百二十年、岡八百二十一年、岡八百二十二年、岡八百二十三年、岡八百二十四年、岡八百二十五年、岡八百二十六年、岡八百二十七年、岡八百二十八年、岡八百二十九年、岡八百三十年、岡八百三十一年、岡八百三十二年、岡八百三十三年、岡八百三十四年、岡八百三十五年、岡八百三十六年、岡八百三十七年、岡八百三十八年、岡八百三十九年、岡八百四十年、岡八百四十一年、岡八百四十二年、岡八百四十三年、岡八百四十四年、岡八百四十五年、岡八百四十六年、岡八百四十七年、岡八百四十八年、岡八百四十九年、岡八百五十年、岡八百五十一年、岡八百五十二年、岡八百五十三年、岡八百五十四年、岡八百五十五年、岡八百五十六年、岡八百五十七年、岡八百五十八年、岡八百五十九年、岡八百六十年、岡八百六十一年、岡八百六十二年、岡八百六十三年、岡八百六十四年、岡八百六十五年、岡八百六十六年、岡八百六十七年、岡八百六十八年、岡八百六十九年、岡八百七十年、岡八百七十一年、岡八百七十二年、岡八百七十三年、岡八百七十四年、岡八百七十五年、岡八百七十六年、岡八百七十七年、岡八百七十八年、岡八百七十九年、岡八百八十年、岡八百八十一年、岡八百八十二年、岡八百八十三年、岡八百八十四年、岡八百八十五年、岡八百八十六年、岡八百八十七年、岡八百八十八年、岡八百八十九年、岡八百九十年、岡八百九十一年、岡八百九十二年、岡八百九十三年、岡八百九十四年、岡八百九十五年、岡八百九十六年、岡八百九十七年、岡八百九十八年、岡八百九十九年、岡九百年、岡九百一年、岡九百二年、岡九百三年、岡九百四年、岡九百五年、岡九百六年、岡九百七年、岡九百八年、岡九百九年、岡九百十年、岡九百十一年、岡九百十二年、岡九百十三年、岡九百十四年、岡九百十五年、岡九百十六年、岡九百十七年、岡九百十八年、岡九百十九年、岡九百二十年、岡九百二十一年、岡九百二十二年、岡九百二十三年、岡九百二十四年、岡九百二十五年、岡九百二十六年、岡九百二十七年、岡九百二十八年、岡九百二十九年、岡九百三十年、岡九百三十一年、岡九百三十二年、岡九百三十三年、岡九百三十四年、岡九百三十五年、岡九百三十六年、岡九百三十七年、岡九百三十八年、岡九百三十九年、岡九百四十年、岡九百四十一年、岡九百四十二年、岡九百四十三年、岡九百四十四年、岡九百四十五年、岡九百四十六年、岡九百四十七年、岡九百四十八年、岡九百四十九年、岡九百五十年、岡九百五十一年、岡九百五十二年、岡九百五十三年、岡九百五十四年、岡九百五十五年、岡九百五十六年、岡九百五十七年、岡九百五十八年、岡九百五十九年、岡九百六十年、岡九百六十一年、岡九百六十二年、岡九百六十三年、岡九百六十四年、岡九百六十五年、岡九百六十六年、岡九百六十七年、岡九百六十八年、岡九百六十九年、岡九百七十年、岡九百七十一年、岡九百七十二年、岡九百七十三年、岡九百七十四年、岡九百七十五年、岡九百七十六年、岡九百七十七年、岡九百七十八年、岡九百七十九年、岡九百八十年、岡九百八十一年、岡九百八十二年、岡九百八十三年、岡九百八十四年、岡九百八十五年、岡九百八十六年、岡九百八十七年、岡九百八十八年、岡九百八十九年、岡九百九十年、岡九百九十一年、岡九百九十二年、岡九百九十三年、岡九百九十四年、岡九百九十五年、岡九百九十六年、岡九百九十七年、岡九百九十八年、岡九百九十九年、岡千年、岡千一年、岡千二年、岡千三年、岡千四年、岡千五年、岡千六年、岡千七年、岡千八年、岡千九年、岡千十年、岡千十一年、岡千十二年、岡千十三年、岡千十四年、岡千十五年、岡千十六年、岡千十七年、岡千十八年、岡千十九年、岡千二十年、岡千二十一年、岡千二十二年、岡千二十三年、岡千二十四年、岡千二十五年、岡千二十六年、岡千二十七年、岡千二十八年、岡千二十九年、岡千三十年、岡千三十一年、岡千三十二年、岡千三十三年、岡千三十四年、岡千三十五年、岡千三十六年、岡千三十七年、岡千三十八年、岡千三十九年、岡千四十年、岡千四十一年、岡千四十二年、岡千四十三年、岡千四十四年、岡千四十五年、岡千四十六年、岡千四十七年、岡千四十八年、岡千四十九年、岡千五十年、岡千五十一年、岡千五十二年、岡千五十三年、岡千五十四年、岡千五十五年、岡千五十六年、岡千五十七年、岡千五十八年、岡千五十九年、岡千六十年、岡千六十一年、岡千六十二年、岡千六十三年、岡千六十四年、岡千六十五年、岡千六十六年、岡千六十七年、岡千六十八年、岡千六十九年、岡千七十年、岡千七十一年、岡千七十二年、岡千七十三年、岡千七十四年、岡千七十五年、岡千七十六年、岡千七十七年、岡千七十八年、岡千七十九年、岡千八十年、岡千八十一年、岡千八十二年、岡千八十三年、岡千八十四年、岡千八十五年、岡千八十六年、岡千八十七年、岡千八十八年、岡千八十九年、岡千九十年、岡千九十一年、岡千九十二年、岡千九十三年、岡千九十四年、岡千九十五年、岡千九十六年、岡千九十七年、岡千九十八年、岡千九十九年、岡二千年、岡二千一年、岡二千二年、岡二千三年、岡二千四年、岡二千五年、岡二千六年、岡二千七年、岡二千八年、岡二千九年、岡二千十年、岡二千十一年、岡二千十二年、岡二千十三年、岡二千十四年、岡二千十五年、岡二千十六年、岡二千十七年、岡二千十八年、岡二千十九年、岡二千二十年、岡二千二十一年、岡二千二十二年、岡二千二十三年、岡二千二十四年、岡二千二十五年、岡二千二十六年、岡二千二十七年、岡二千二十八年、岡二千二十九年、岡二千三十年、岡二千三十一年、岡二千三十二年、岡二千三十三年、岡二千三十四年、岡二千三十五年、岡二千三十六年、岡二千三十七年、岡二千三十八年、岡二千三十九年、岡二千四十年、岡二千四十一年、岡二千四十二年、岡二千四十三年、岡二千四十四年、岡二千四十五年、岡二千四十六年、岡二千四十七年、岡二千四十八年、岡二千四十九年、岡二千五十年、岡二千五十一年、岡二千五十二年、岡二千五十三年、岡二千五十四年、岡二千五十五年、岡二千五十六年、岡二千五十七年、岡二千五十八年、岡二千五十九年、岡二千六十年、岡二千六十一年、岡二千六十二年、岡二千六十三年、岡二千六十四年、岡二千六十五年、岡二千六十六年、岡二千六十七年、岡二千六十八年、岡二千六十九年、岡二千七十年、岡二千七十一年、岡二千七十二年、岡二千七十三年、岡二千七十四年、岡二千七十五年、岡二千七十六年、岡二千七十七年、岡二千七十八年、岡二千七十九年、岡二千八十年、岡二千八十一年、岡二千八十二年、岡二千八十三年、岡二千八十四年、岡二千八十五年、岡二千八十六年、岡二千八十七年、岡二千八十八年、岡二千八十九年、岡二千九十年、岡二千九十一年、岡二千九十二年、岡二千九十三年、岡二千九十四年、岡二千九十五年、岡二千九十六年、岡二千九十七年、岡二千九十八年、岡二千九十九年、岡三千年、岡三千一年、岡三千二年、岡三千三年、岡三千四年、岡三千五年、岡三千六年、岡三千七年、岡三千八年、岡三千九年、岡三千十年、岡三千十一年、岡三千十二年、岡三千十三年、岡三千十四年、岡三千十五年、岡三千十六年、岡三千十七年、岡三千十八年、岡三千十九年、岡三千二十年、岡三千二十一年、岡三千二十二年、岡三千二十三年、岡三千二十四年、岡三千二十五年、岡三千二十六年、岡三千二十七年、岡三千二十八年、岡三千二十九年、岡三千三十年、岡三千三十一年、岡三千三十二年、岡三千三十三年、岡三千三十四年、岡三千三十五年、岡三千三十六年、岡三千三十七年、岡三千三十八年、岡三千三十九年、岡三千四十年、岡三千四十一年、岡三千四十二年、岡三千四十三年、岡三千四十四年、岡三千四十五年、岡三千四十六年、岡三千四十七年、岡三千四十八年、岡三千四十九年、岡三千五十年、岡三千五十一年、岡三千五十二年、岡三千五十三年、岡三千五十四年、岡三千五十五年、岡三千五十六年、岡三千五十七年、岡三千五十八年、岡三千五十九年、岡三千六十年、岡三千六十一年、岡三千六十二年、岡三千六十三年、岡三千六十四年、岡三千六十五年、岡三千六十六年、岡三千六十七年、岡三千六十八年、岡三千六十九年、岡三千七十年、岡三千七十一年、岡三千七十二年、岡三千七十三年、岡三千七十四年、岡三千七十五年、岡三千七十六年、岡三千七十七年、岡三千七十八年、岡三千七十九年、岡三千八十年、岡三千八十一年、岡三千八十二年、岡三千八十三年、岡三千八十四年、岡三千八十五年、岡三千八十六年、岡三千八十七年、岡三千八十八年、岡三千八十九年、岡三千九十年、岡三千九十一年、岡三千九十二年、岡三千九十三年、岡三千九十四年、岡三千九十五年、岡三千九十六年、岡三千九十七年、岡三千九十八年、岡三千九十九年、岡四千年、岡四千一年、岡四千二年、岡四千三年、岡四千四年、岡四千五年、岡四千六年、岡四千七年、岡四千八年、岡四千九年、岡四千十年、岡四千十一年、岡四千十二年、岡四千十三年、岡四千十四年、岡四千十五年、岡四千十六年、岡四千十七年、岡四千十八年、岡四千十九年、岡四千二十年、岡四千二十一年、岡四千二十二年、岡四千二十三年、岡四千二十四年、岡四千二十五年、岡四千二十六年、岡四千二十七年、岡四千二十八年、岡四千二十九年、岡四千三十年、岡四千三十一年、岡四千三十二年、岡四千三十三年、岡四千三十四年、岡四千三十五年、岡四千三十六年、岡四千三十七年、岡四千三十八年、岡四千三十九年、岡四千四十年、岡四千四十一年、岡四千四十二年、岡四千四十三年、岡四千四十四年、岡四千四十五年、岡四千四十六年、岡四千四十七年、岡四千四十八年、岡四千四十九年、岡四千五十年、岡四千五十一年、岡四千五十二年、岡四千五十三年、岡四千五十四年、岡四千五十五年、岡四千五十六年、岡四千五十七年、岡四千五十八年、岡四千五十九年、岡四千六十年、岡四千六十一年、岡四千六十二年、岡四千六十三年、岡四千六十四年、岡四千六十五年、岡四千六十六年、岡四千六十七年、岡四千六十八年、岡四千六十九年、岡四千七十年、岡四千七十一年、岡四千七十二年、岡四千七十三年、岡四千七十四年、岡四千七十五年、岡四千七十六年、岡四千七十七年、岡四千七十八年、岡四千七十九年、岡四千八十年、岡四千八十一年、岡四千八十二年、岡四千八十三年、岡四千八十四年、岡四千八十五年、岡四千八十六年、岡四千八十七年、岡四千八十八年、岡四千八十九年、岡四千九十年、岡四千九十一年、岡四千九十二年、岡四千九十三年、岡四千九十四年、岡四千九十五年、岡四千九十六年、岡四千九十七年、岡四千九十八年、岡四千九十九年、岡五千年、岡五千一年、岡五千二年、岡五千三年、岡五千四年、岡五千五年、岡五千六年、岡五千七年、岡五千八年、岡五千九年、岡五千十年、岡五千十一年、岡五千十二年、岡五千十三年、岡五千十四年、岡五千十五年、岡五千十六年、岡五千十七年、岡五千十八年、岡五千十九年、岡五千二十年、岡五千二十一年、岡五千二十二年、岡五千二十三年、岡五千二十四年、岡五千二十五年、岡五千二十六年、岡五千二十七年、岡五千二十八年、岡五千二十九年、岡五千三十年、岡五千三十一年、岡五千三十二年、岡五千三十三年、岡五千三十四年、岡五千三十五年、岡五千三十六年、岡五千三十七年、岡五千三十八年、岡五千三十九年、岡五千四十年、岡五千四十一年、岡五千四十二年、岡五千四十三年、岡五千四十四年、岡五千四十五年、岡五千四十六年、岡五千四十七年、岡五千四十八年、岡五千四十九年、岡五千五十年、岡五千五十一年、岡五千五十二年、岡五千五十三年、岡五千五十四年、岡五千五十五年、岡五千五十六年、岡五千五十七年、岡五千五十八年、岡五千五十九年、岡五千六十年、岡五千六十一年、岡五千六十二年、岡五千六十三年、岡五千六十四年、岡五千六十五年、岡五千六十六年、岡五千六十七年、岡五千六十八年、岡五千六十九年、岡五千七十年、岡五千七十一年、岡五千七十二年、岡五千七十三年、岡五千七十四年、岡五千七十五年、岡五千七十六年、岡五千七十七年、岡五千七十八年、岡五千七十九年、岡五千八十年、岡五千八十一年、岡五千八十二年、岡五千八十三年、岡五千八十四年、岡五千八十五年、岡五千八十六年、岡五千八十七年、岡五千八十八年、岡五千八十九年、岡五千九十年、岡五千九十一年、岡五千九十二年、岡五千九十三年、岡五千九十四年、岡五千九十五年、岡五千九十六年、岡五千九十七年、岡五千九十八年、岡五千九十九年、岡六千年、岡六千一年、岡六千二年、岡六千三年、岡六千四年、岡六千五年、岡六千六年、岡六千七年、岡六千八年、岡六千九年、岡六千十年、岡六千十一年、岡六千十二年、岡六千十三年、岡六千十四年、岡六千十五年、岡六千十六年、岡六千十七年、岡六千十八年、岡六千十九年、岡六千二十年、岡六千二十一年、岡六千二十二年、岡六千二十三年、岡六千二十四年、岡六千二十五年、岡六千二十六年、岡六千二十七年、岡六千二十八年、岡六千二十九年、岡六千三十年、岡六千三十一年、岡六千三十二年、岡六千三十三年、岡六千三十四年、岡六千三十五年、岡六千三十六年、岡六千三十七年、岡六千三十八年、岡六千三十九年、岡六千四十年、岡六千四十一年、岡六千四十二年、岡六千四十三年、岡六千四十四年、岡六千四十五年、岡六千四十六年、岡六千四十七年、岡六千四十八年、岡六千四十九年、岡六千五十年、岡六千五十一年、岡六千五十二年、岡六千五十三年、岡六千五十四年、岡六千五十五年、岡六千五十六年、岡六千五十七年、岡六千五十八年、岡六千五十九年、岡六千六十年、岡六千六十一年、岡六千六十二年、岡六千六十三年、岡六千六十四年、岡六千六十五年、岡六千六十六年、岡六千六十七年、岡六千六十八年、岡六千六十九年、岡六千七十年、岡六千七十一年、岡六千七十二年、岡六千七十三年、岡六千七十四年、岡六千七十五年、岡六千七十六年、岡六千七十七年、岡六千七十八年、岡六千七十九年、岡六千八十年、岡六千八十一年、岡六千八十二年、岡六千八十三年、岡六千八十四年、岡六千八十五年、岡六千八十六年、岡六千八十七年、岡六千八十八年、岡六千八十九年、岡六千九十年、岡六千九十一年、岡六千九十二年、岡六千九十三年、岡六千九十四年、岡六千九十五年、岡六千九十六年、岡六千九十七年、岡六千九十八年、岡六千九十九年、岡七千年、岡七千一年、岡七千二年、岡七千三年、岡七千四年、岡七千五年、岡七千六年、岡七千七年、岡七千八年、岡七千九年、岡七千十年、岡七千十一年、岡七千十二年、岡七千十三年、岡七千十四年、岡七千十五年、岡七千十六年、岡七千十七年、岡七千十八年、岡七千十九年、岡七千二十年、岡七千二十一年、岡七千二十二年、岡七千二十三年、岡七千二十四年、岡七千二十五年、岡七千二十六年、岡七千二十七年、岡七千二十八年、岡七千二十九年、岡七千三十年、岡七千三十一年、岡七千三十二年、岡七千三十三年、岡七千三十四年、岡七千三十五年、岡七千三十六年、岡七千三十七年、岡七千三十八年、岡七千三十九年、岡七千四十年、岡七千四十一年、岡七千四十二年、岡七千四十三年、岡七千四十四年、岡七千四十五年、岡七千四十六年、岡七千四十七年、岡七千四十八年、岡七千四十九年、岡七千五十年、岡七千五十一年、岡七千五十二年、岡七千五十三年、岡七千五十四年、岡七千五十五年、岡七千五十六年、岡七千五十七年、岡七千五十八年、岡七千五十九年、岡七千六十年、岡七千六十一年、岡七千六十二年、岡七千六十三年、岡七千六十四年、岡七千六十五年、岡七千六十六年、岡七千六十七年、岡七千六十八年、岡七千六十九年、岡七千七十年、岡七千七十一年、岡七千七十二年、岡七千七十三年、岡七千七十四年、岡七千七十五年、岡七千七十六年、岡七千七十七年、岡七千七十八年、岡七千七十九年、岡七千八十年、岡七千八十一年、岡七千八十二年、岡七千八十三年、岡七千八十四年、岡七千八十五年、岡七千八十六年、岡七千八十七年、岡七千八十八年、岡七千八十九年、岡七千九十年、岡七千九十一年、岡七千九十二年、岡七千九十三年、岡七千九十四年、岡七千九十五年、岡七千九十六年、岡七千九十七年、岡七千九十八年、岡七千九十九年、岡八千年、岡八千一年、岡八千二年、岡八千三年、岡八千四年、岡八千五年、岡八千六年、岡八千七年、岡八千八年、岡八千九年、岡八千十年、岡八千十一年、岡八千十二年、岡八千十三年、岡八千十四年、岡八千十五年、岡八千十六年、岡八千十七年、岡八千十八年、岡八千十九年、岡八千二十年、岡八千二十一年、岡八千二十二年、岡八千二十三年、岡八千二十四年、岡八千二十五年、岡八千二十六年、岡八千二十七年、岡八千二十八年、岡八千二十九年、岡八千三十年、岡八千三十一年、岡八千三十二年、岡八千三十三年、岡八千三十四年、岡八千三十五年、岡八千三十六年、岡八千三十七年、岡八千三十八年、岡八千三十九年、岡八千四十年、岡八千四十一年、岡八千四十二年、岡八千四十三年、岡八千四十四年、岡八千四十五年、岡八千四十六年、岡八千四十七年、岡八千四十八年、岡八千四十九年、岡八千五十年、岡八千五十一年、岡八千五十二年、岡八千五十三年、岡八千五十四年、岡八千五十五年、岡八千五十六年、岡八千五十七年、岡八千五十八年、岡八千五十九年、岡八千六十年、岡八千六十一年、岡八千六十二年、岡八千六十三年、岡八千六十四年、岡八千六十五年、岡八千六十六年、岡八千六十七年、岡八千六十八年、岡八千六十九年、岡八千七十年、岡八千七十一年、岡八千七十二年、岡八千七十三年、岡八千七十四年、岡八千七十五年、岡八千七十六年、岡八千七十七年、岡八千七十八年、岡八千七十九年、岡八千八十年、岡八千八十一年、岡八千八十二年、岡八千八十三年、岡八千八十四年、岡八千八十五年、岡八千八十六年、岡八千八十七年、岡八千八十八年、岡八千八十九年、岡八千九十年、岡八千九十一年、岡八千九十二年、岡八千九十三年、岡八千九十四年、岡八千九十五年、岡八千九十六年、岡八千九十七年、岡八千九十八年、岡八千九十九年、岡九千年、岡九千一年、岡九千二年、岡九千三年、岡九千四年、岡九千五年、岡九千六年、岡九千七年、岡九千八年、岡九千九年、岡九千十年、岡九千十一年、岡九千十二年、岡九千十三年、岡九千十四年、岡九千十五年、岡九千十六年、岡九千十七年、岡九千十八年、岡九千十九年、岡九千二十年、岡九千二十一年、岡九千二十二年、岡九千二十三年、岡九千二十四年、岡九千二十五年、岡九千二十六年、岡九千二十七年、岡九千二十八年、岡九千二十九年、岡九千三十年、岡九千三十一年、岡九千三十二年、岡九千三十三年、岡九千三十四年、岡九千三十五年、岡九千三十六年、岡九千三十七年、岡九千三十八年、岡九千三十九年、岡九千四十年、岡九千四十一年、岡九千四十二年、岡九千四十三年、岡九千四十四年、岡九千四十五年、岡九千四十六年、岡九千四十七年、岡九千四十八年、岡九千四十九年、岡九千五十年、岡九千五十一年、岡九千五十二年、岡九千五十三年、岡九千五十四年、岡九千五十五年、岡九千五十六年、岡九千五十七年、岡九千五十八年、岡九千五十九年、岡九千六十年、岡九千六十一年、岡九千六十二年、岡九千六十三年、岡九千六十四年、岡九千六十五年、岡九千六十六年、岡九千六十七年、岡九千六十八年、岡九千六十九年、岡九千七十年、岡九千七十一年、岡九千七十二年、岡九千七十三年、岡九千七十四年、岡九千七十五年、岡九千七十六年、岡九千七十七年、岡九千七十八年、岡九千七十九年、岡九千八十年、岡九千八十一年、岡九千八十二年、岡九千八十三年、岡九千八十四年、岡九千八十五年、岡九千八十六年、岡九千八十七年、岡九千八十八年、岡九千八十九年、岡九千九十年、岡九千九十一年、岡九千九十二年、岡九千九十三年、岡九千九十四年、岡九千九十五年、岡九千九十六年、岡九千九十

レート

お化粧そのまゝの味★
ほのかな香い★
ばゝあ向きなけた

粉白粉

傳統と品質を誇る！

ウテナクリーム

バニシング・コールド

新発売！

ラノリン配合の最高品質

花王ラノリンフード

信用と繁栄の

本舗 株式會社 井筒屋商店

最高の基準品

ミルククリーム

バニシング
コールド

資生堂
クリーム

GINZA TOKYO

コールド バニシング

最良の品質を誇る

MASTER HYGIENIC CREAMS

百萬人の要求に應えて…

マスターが陽春に魅けて贈る
畫期的榮養中性クリーム——
ハイヂィニツク！

マスター粉白粉　新色八種・マスターホームパクト　新色七種・完成

新發賣！

マスター
ハイヂィニツク
クリーム

東京 港區 霞町　株式會社 東京 尙美堂

ヘチマコロン

化粧水の
最高基準品

お化粧下に洗顏後に
男子のヒゲソリ後に

最高級
ヘチマコロン
化粧水

KINGIKU CO. LTD.

本舗　東京　株式會社　近源商店